

日本, 中国および WHO における 乳癌組織分類の比較

傅 麗¹⁾ 土屋 眞一²⁾

1) 中華人民共和国吉林省腫瘍医院病理科

2) 長野県がん検診センター病理部

Comparison of Histological Classification of Breast Cancer between Japan, China and WHO

Li Fu¹⁾ and Shin-ichi TSUCHIYA²⁾

1) *Division of Pathology, Jilin Provincial Cancer Institute Hospital, China*

2) *Division of Pathology, Nagano Cancer Detection Center, Japan*

Key words: Breast neoplasm, Histological classification, China, WHO, Japan

乳腺腫瘍, 組織分類, 中国, WHO, 日本

中華人民共和国では、乳癌の罹患率は女性の悪性腫瘍の中で子宮頸癌に続く第2位の位置を占めており、早急な対策が望まれている。

日本¹⁾での乳腺悪性腫瘍の約99%が上皮性腫瘍、すなわち癌腫であると同様、中華人民共和国²⁾でも約95%が上皮性の乳癌で占められている。日本では最近、その罹患率は急速に増加の傾向にあり、近い将来、女性の悪性腫瘍に占める乳癌の割合は第1位になるであろうと予測されている。早晩、中国でも同じような傾向が現れて来ると考えられている。

このような状況の中で病理診断の重要性は論を待たないが、その元となる組織型の決定に関しては、組織型の分類数が非常に多いことや、同一病巣でもいくつかの組織像の混在がみられることなどから、実際の病理診断での組織型決定には苦慮することが多い。さらに、使用する分類が各国によって異なっていることも、その難しさに拍車をかけている。今回われわれは日頃触れることがない中国の乳癌組織分類²⁾を紹介するとともに、日本³⁾とWHO⁴⁾の分類(表1)と比較し、その特徴と問題点を概説したい。

中国の乳癌組織分類²⁾(表2)は、日本の乳癌取扱い規約とWHO分類が非浸潤癌をnoninvasive ductal

carcinomaとnoninvasive lobular carcinomaの2種類の亜型に大別しているのに対し、中国のそれは5種類に分類されている。1-aはnoninvasive lobular carcinomaで日本やWHOの分類と同じであるが、noninvasive ductal carcinomaをsolid-tubular(図1)、cribriform, papillaryおよびlow papillary typeの4つ(1-b~1-e)の亜型に分けている点が特徴である。ただし、comedo typeはこの分類には欠落している。日本やWHOの分類ではこれらの亜型が同一組織上にしばしば混在して出現することがあるため、解説はされているものの、今のところ亜型としては特に分けていない。

浸潤癌は10項目に分類されており、日本およびWHOの分類と互換性のある組織診断名は2-a: invasive lobular carcinoma, 2-b: adenocarcinoma (tubular ca.), 2-d: medullary carcinoma, 2-e: mucinous carcinoma, 2-f: apocrine carcinoma, 2-g: spindle cell carcinoma, 2-h: squamous cell carcinoma, 2-j: Paget's diseaseである。Carcinoidやlipid-secreting carcinomaが入るthe othersやsecretory carcinoma, adenoid cystic carcinoma, carcinoma with cartilagenous and/or osseous metaplasiaの組織型は欠

表1 乳癌研究会分類とWHO分類

乳癌研究会	WHO
1a 非浸潤性乳管癌	1a Intraductal carcinoma
1b 非浸潤性小葉癌	1b Lobular carcinoma in situ
2a 浸潤性乳管癌	2a Invasive ductal carcinoma
	2b Invasive ductal carcinoma with a predominant intraductal component
2a1 乳頭腺管癌 (Papillotubular ca.)	2a Invasive ductal carcinoma
	2b Invasive ductal carcinoma with a predominant intraductal component
	2f Papillary carcinoma
2a2 充実腺管癌 (Solid-tubular ca.)	2a Invasive ductal carcinoma
	2b Invasive ductal carcinoma with a predominant intraductal component
2a3 硬癌 (Scirrhus ca.)	2a Invasive ductal carcinoma
2b 特殊型	
2b1 粘液癌	2d Mucinous carcinoma
2b2 髓様癌	2e Medullary carcinoma
2b3 浸潤性小葉癌	2c Invasive lobular carcinoma
2b4 腺様嚢胞癌	2h Adenoid cystic carcinoma
2b5 扁平上皮癌	2ki Carcinoma with metaplasia squamous type
2b6 紡錘細胞癌	2kii Carcinoma with metaplasia spindle-cell type
2b7 アポクリン癌	2j Apocrine carcinoma
2b8 骨・軟骨化生を伴う癌	2kiii Carcinoma with metaplasia cartilagenous and osseous type
2b9 管状癌	2g Tubular carcinoma
2b10 分泌癌	2i Secretory carcinoma
2b11 その他	2l Others
3 Paget病	3 Paget's disease of the nipple

表2 中国の組織分類

1 Noninvasive carcinoma
a Noninvasive lobular carcinoma
b Noninvasive solid-tubular carcinoma
c Noninvasive cribriform carcinoma
d Noninvasive papillary carcinoma
e Noninvasive low papillary carcinoma
2 Invasive carcinoma
a Invasive lobular carcinoma
b Adenocarcinoma (Tubular carcinoma)
c Solid carcinoma (including scirrhus ca., simple ca., and atypical medullary ca.)
d Medullary carcinoma
e Mucinous carcinoma
f Apocrine carcinoma
g Spindle cell carcinoma
h Squamous cell carcinoma
i Carcinosarcoma
j Paget's disease



図1 Noninvasive solid-tubular carcinoma (中国分類)

個々の胞巣は基底膜、筋上皮細胞で囲まれており、非浸潤癌に相当する。日本の乳癌取扱い規約では非浸潤性乳管癌の充実型に相当する。(HE×40)

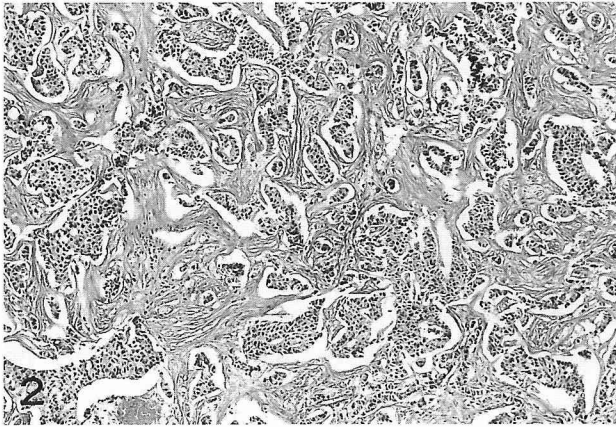
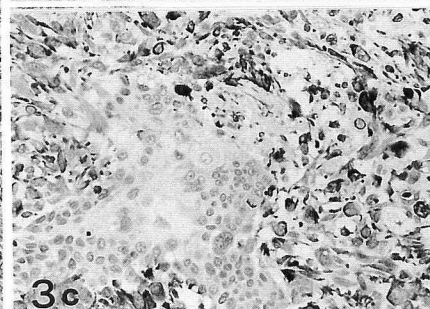
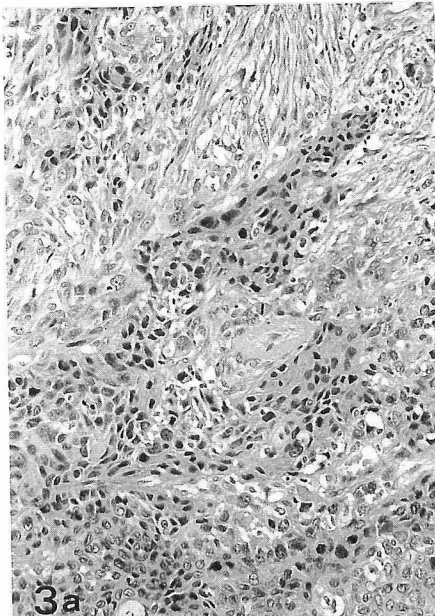


図2 Solid carcinoma (中国分類)

比較的小さい胞巣が間質に浸潤しており、日本の乳癌取扱い規約では硬癌に相当する。(HE×40)

図3 Carcinosarcoma (中国分類)

やや扁平上皮化生の傾向がある胞巣と、周囲の間質には紡錘形細胞の浸潤を認める(a)。EMA(b)で胞巣が、vimentin(c)で間質内の細胞が染まり、乳癌取扱い規約の紡錘細胞癌(いわゆる癌肉腫)とは異なっている。(a HE×100, b EMA×40, c vimentin×100)



如している。Paget's disease は以前は Paget 癌の名称で日本でも invasive carcinoma の特殊型の 1 つに分類されていたが、非浸潤像がかなりの部分を占めることや、その特異な臨床像から、現在では独立させ、第 3 の大きな分類項目に入っている。中国では未だ invasive carcinoma の項目に入れられている。2-c: solid carcinoma (図 2) に相当する日本の分類は solid-tubular carcinoma と scirrhous carcinoma が含まれるが papillotubular carcinoma に相当する診断名はみられず、この組織型は 2-c の simple ca. で代用されている。2-i の carcinosarcoma (図 3) は以前、日本や WHO の分類で so-called carcinosarcoma、現在では spindle cell carcinoma と名称が変更されている疾患ではなく、“真の癌肉腫”を指し、それが乳癌組織分類に入っている。“真の癌肉腫”は本来は非上皮性-上皮性混合腫瘍であることを考えると、car-

cinoma を上皮性腫瘍の分類に入れることには問題が残ると考える。

以上のように、浸潤癌に関しては、中国の組織分類にはかなりの不備があり、いずれ WHO や日本の分類を参考にして改定されるであろうが、非浸潤癌、とくに非浸潤性乳管癌では日本、WHO の分類では細分類されていない亜型が中国では比較的細かく記載されている。非浸潤性乳管癌は癌が乳管内にとどまり、間質への浸潤を欠くものを指すが、現在、診断法の向上に連れ、その発生頻度は次第に高まる傾向にあり、さらに、その組織亜型によっても、例えば comedo type⁵⁾ と他の亜型の予後がかなり異なっている点などから、非浸潤癌でもある程度の細分類に近い将来、日本の取扱い規約や WHO 分類でも必要になって来るのではないかと思われる。

文 献

- 1) 坂元吾偉：乳腺腫瘍病理アトラス。pp 21-85, 篠原出版, 東京, 1987
- 2) 顧綏岳：実用外科病理学。1st ed, pp 451-458, 江苏科学技术出版社, 北京, 1987
- 3) 乳癌研究会編：臨床・病理乳癌取扱い規約 第10版, 金原出版, 東京, 1989
- 4) WHO: Histological typing breast tumours. 2nd ed, Geneva, 1981
- 5) 秋山 太, 坂元吾偉, 菊地昌弘：乳管内進展型乳癌における乳管外浸潤と予後についての臨床病理学的研究。乳癌の臨床 4: 429-441, 1989

(5. 1. 11 受稿)